

九州大学

大学史料室ニュース

第20号

2003. 2. 28.

目次 (特集号)

創設十周年にあたって…………… 2	九州大学情報公開委員会規則(抄)…………… 8
研究会参加記 京都大学大学文書館 「大学アーカイヴズに関する研究会」…………… 4	九州大学大学史料室規則…………… 9
大学史料室沿革…………… 6	大学史料室共同研究一覧…………… 10
九州大学史料収集・保存に関する委員会名簿…………… 7	刊行物一覧…………… 10
九州大学大学史料室名簿…………… 7	受贈図書一覧…………… 10
	大学史料室日誌抄録…………… 14



1963年(昭和38)当時の箱崎地区。左上方に板付飛行場(現福岡空港)が見える。

創設十周年にあたって

有川 節夫

平成14年(2002)は、大学史料室創設10周年に当たりました。そしてまた毎年2号ずつ刊行してきました本ニュースも、本号で第20号を迎えます。そこで、大学史料室長の任にある者として、ここにこの間の経緯と大学史料室の活動について、御報告させていただきたいと思えます。

当室は、上にも述べましたように、今から10年ほど前の平成4年(1992)12月、評議会において九州大学大学史料室規則が制定されて発足しました。人員、部屋等は、同年3月まで活動していました九州大学七十五年史編集室を引き継いだものですが、上記の規則制定で、正式に学内措置の共同利用施設として認められたものです。

大学史料室設置の目的は、「九州大学に関わる公文書等の史料を収集・整理・保存し、大学及び大学の歴史に関する調査・研究を行うとともに、その史料を九州大学の教官・事務官その他の者の利用に供すること」にあります。

全学委員会であります「九州大学史料収集・保存に関する委員会」のもとに大学史料室が置かれるという体制で長年活動を行ってきましたが、平成14年4月に改編がなされ、「九州大学情報公開委員会(全学委員会)―史料収集・保存委員会―大学史料室」という体制になりました。史料収集・保存委員会を情報公開委員会の中に位置づけ直したもので、大学情報の提供(発信)には、①いわゆる情報公開制度によるものと、②大学史料室(大学アーカイブセクション)によるもの

2つがある、ということをより明確にした改編であります。

室員は私(副学長)が兼任します室長と、副室長(兼任)、専任教官(助教授1名)のほか、2名の事務補佐員の任用が認められています。しかし、なにぶんにも少人数のため、兼任教官の先生方(現在7名)をお願いして活動を行っているところです。

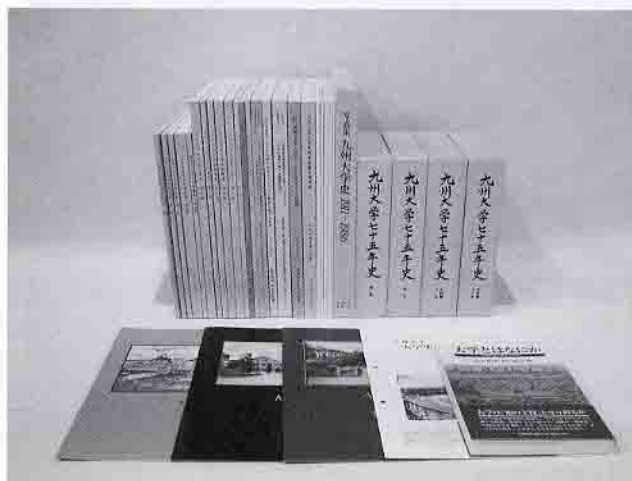
業務としましては、①史料の収集・整理・保存、②教育活動、③史料の調査・研究、④情報提供・刊行、等の活動があります。このうちでは、情報公開法の保存期限切れとなった大学行政文書を受入れ、選別(廃棄)して、整理、保存、提供するという、①の業務が最も重要であります。近年では②の教育活動や、③の調査・研究活動にも力を入れるようになりました。

例えば、平成9年(1997)度からは、専任教官による全学共通教育科目(周辺教育科目)「九州大学の歴史」の講義を行っていますが、これは全学レベルのものとしては国立大学初の試みであります。また平成11年度からは専任・兼任教官を中心にして、同じく大学史・大学論の全学共通教育科目(総合科目)「大学とは何か―ともに考える―」を開講し、平成14年(2002)3月には教科書『大学とはなにか―九州大学に学ぶ人々へ―』も刊行しました。これらの活動は全国的に注目され、多くの視察や照会、あるいはマスコミ等の取材を受けているものです。

大学史料室では、専任・兼任教官による共同研究も組織しています。九州大学の歴史や大学アーカイブについての研究を中心に、科学研究費やいわゆるP&P経費等で、合計5つの研究を行ったほか、現在は科学研究費による2つの共同研究が進行中です。

刊行物・収集(移管)文書等につきましても説明をしておきますと、刊行物は史料室設置直後の平成5年(1993)3月に、『九州大学大学史料叢書』(年1回、現在第10輯)と「九州大学大学史料室ニュース」(年2回、本号で第20号)を創刊し、現在ではこのほかに大学史料室所蔵の文書・写真の目録、報告書等、計20冊を刊行しております。

収集文書等につきましては、毎年度末に退



刊行物

官予定の先生方に史料の寄贈をお願いし、定期的な寄贈をいただいているほか、平成6年からは「要項」を制定しまして、学内の印刷物の収集も始めました。また部分的ながら各事務部の公文書の受入れを行い、現在では大学本部事務局、理学部、工学部、旧教養部、旧産業労働研究所、旧制福岡高等学校の関係文書が移管されています。特に旧制福岡関係史料は全文書が移管され、これにより旧制福岡高等学校→九州大学分校→九州大学教養部と続く一般（教養）教育の歴史に関する基本史料のほとんどが、大学史料室に所蔵されることになりました。しかし、上の移管文書の多くにいわゆる半現用文書が含まれており、実際の利用には各事務部（原課）等との協議が必要であります。いずれにしましても、収集史料の利用のあり方を早急に検討することが、現在の大学史料室の課題となっております。

以上のような本室の活動につきましては、幸い学内外の御理解を得ることができ、平成13年3月には、総務省からいわゆる「歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料」（行政機関の保有する情報の公開に関する法律施行令）を保管する施設に指定されました。この総務省指定は、本学では附属図書館と大学史料室の2施設のみであり、本室の誇りとしているところです。また同年10月には、共同研究「低年次教育における九州大学史カリキュラム開発に関する研究」に対しまして、2001年九州大学総長賞（P & P 成果表彰）が授与されました。大学アーカイブセクションとしての活動に、今後も邁進したいと思っております。

ところで、特に近年、大規模な総合大学を中心に、大学アーカイブセクション（大学史料室、大学文書館）の設置・拡充がなされております。国立大学のアーカイブセクションは、昭



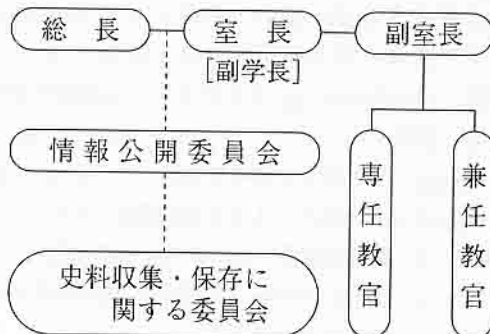
他大学関係刊行物コーナー

和38年（1963）の東北大学を嚆矢として、東京、九州、名古屋、京都と設置されてきましたが、中でも京都大学は、平成12年（2000）、広さ2,600㎡、教官4名、非常勤職員6名という、大規模な大学文書館を設立しました。また欧米大学では、図書館、博物館と並んで大学アーカイブを設置することが常識となっております。

これからの大学は情報化、少子高齢社会を迎え、また国立大学はいわゆる法人化を目前にして、より一層社会に開かれた組織にならなければなりません。これはキャンパス移転を控え、研究院・学府制度の導入等、全国に先がけた「改革」が進行中の本学の場合にも当てはまることでありましよう。上に見ました大規模大学等でのアーカイブの設置・拡充は、それに対する一つの対応策であります。大学の生産した事務文書を収集し、大学の歴史や組織について研究するアーカイブセクション（大学史料室）の果たす役割は、今後益々重要になるものと思われまます。

以上、最近の例を中心にしまして、大学史料室の活動を報告いたしました。この間には、本室の基礎作りをされた歴代室長の御尽力は勿論、本部事務局をはじめとします学内外の御協力がありました。改めて御礼申し上げますとともに、今後の御支援をお願いするものであります。

（大学史料室長・副学長）



九州大学大学史料室組織図

京都大学大学文書館「大学アーカイヴズに関する研究会」

折田悦郎

昨年の12月7日、京都大学大学文書館で第2回「大学アーカイヴズに関する研究会」が開かれた。昨年2月の第1回研究会に続くもので、九州大学からは、大学史料室長の有川節夫教授（副学長）、副室長の新谷恭明教授（人間環境学研究院教授・大学史料室兼任教官）、本部事務局総務部総務課白石寛治専門職員、それに筆者の4名が参加した。そこで今回は、京都大学大学文書館訪問と「大学アーカイヴズに関する研究会」への参加について報告してみたい。

先ず、最初に京都大学の大学文書館について説明をしておく、同館は2000年（平成12）11月に創設された、我が国では最初の本格的な大学文書館である。館長1、兼任教授1、専任助教授1、専任助手2、非常勤職員6という人員を擁し、また外国大学の文書館にもひけをとらない規模の専用施設（延面積2600㎡）を有する大規模な組織である。当館の特色としては、①収集史料を大学の生産した行政文書と大学関係の私文書に特化したこと、②京都大学百年史の編集室を基礎にしながらも、いわゆる情報公開法の施行をテコに、事務局主導の体制で本格的な文書館を設置したこと、③保存期間の満了した大学行政文書は大学文書館に移管することを義務規程としたこと（京都大学における行政文書の管理に関する規程）、かつ非現用行政文書の一元的管理（受入れのみならず、選

別・廃棄も）を大学文書館が行うという体制を構築したこと、④それにもかかわらず分館構想も想定されているということ、等を挙げる事ができよう。

現在、情報公開法の期限切れとなった大学事務文書21500ファイルを収蔵し（今年度中にはさらに21000ファイルを収蔵予定）、また、本年12月には京都大学のシンボルとも言うべき時計台に移転する（延面積3400㎡）。本格的な開館は来年4月だが、そこには展示ホール（160㎡）や閲覧室（130㎡）、研究室、会議室も設置される予定だという。

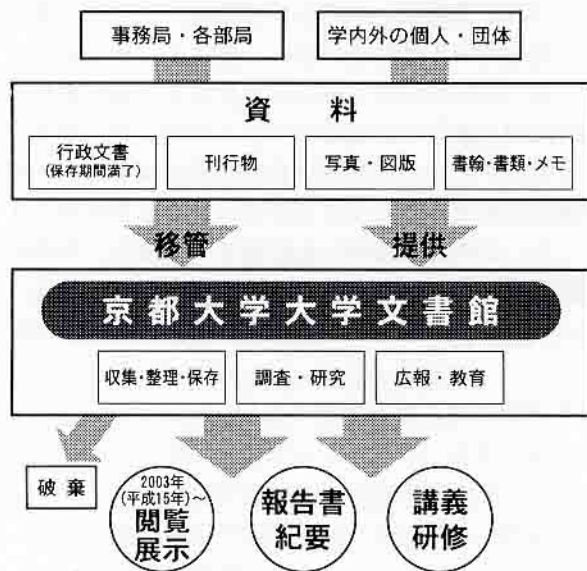
第2回「大学アーカイヴズに関する研究会」は、このような京都大学大学文書館が、「大学アーカイヴズの理念と今後の課題を考える」ことを目的に「アーカイヴズ論の今と国立大学のアーカイヴズ」をテーマとして開催した研究会である。国立大学等における大学文書館（アーカイヴズ）関係では唯一の研究会であり、北海道大学、東北大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、広島大学、九州大学等、旧帝大系の国立大学を中心に9校、このほかオブザーバーとして地域文書館関係から京都府立総合資料館、和歌山県立文書館、滋賀県広報課等の7施設、合計約40名の出席があった。

午後12時30分受付開始。集合写真撮影、大学文書館近衛館・楽友会館の書庫見学のあと、1時30分より研究会が始まった。基調報告は沖縄県立図書館の富永一也氏による「われわれのアーカイヴズ：公文書館の精神を求めて」。長い公文書館勤務の経験を持ち、また米国ジョージ・ワシントン大学大学院修士課程修了、スミソニアン協会公文書館ヴィジティング・スカラーとして研修経験もある富永氏は、近年公文書館論に関して意欲的な論文を次々と発表している気鋭の研究者・アーキビストである（発表の項目は以下の通り）。

標題 われわれのアーカイヴズ：公文書館の精神を求めて

- 1 なぜ精神を求めるのか
- 2 アーカイヴズをめぐる混乱について
- 3 機関を定義するにあたっては、機能（ファンクション）ではなく、目的理念が優先すべきであること
- 4 われわれのアーカイヴズ（論点として）

最初に、近年見られる公文書館論の混乱は我が



京都大学大学文書館の役割イメージ図（同館パンフレットより）

国特有の問題ではなく、欧米においても見られることの紹介があり、その解決のためには「情緒的」な言説ではなく、「公文書館とは何か」という概念規定が何よりも重要であるとの説明があった。そして、①「図書は図書館、モノ資料は博物館、文書は文書館」へといういわゆる「三分法」や、②「図書館、博物館と公文書館とは資料の整理手法が違う」という「整理手法による領域確立」論が検討されたが、これらについてはいずれも公文書館が独立した組織として存在する必然性を論理的に説明するものではない、との批判がなされた。①については、図書館法や博物館法では当該機関での収集を「図書」や「実物」に限定していないとの指摘が興味深い。図書館は図書だけでなく、記録やその他必要な資料、郷土資料、地方行政資料も収集できるのである。要するに「三分法」は分業論であり、この論法によれば「図書館や博物館に十分な予算をまわして、公文書館をつくらないまま」にしても、別に問題はないというわけである。②についても、例えば（公）文書館に特有と見られていた「出处原則」（文書の原秩序保存）は、近年では図書館や博物館でもこれを採用すべきとの考え方が有力になっているという。「図書館や博物館の方から見れば、それらの原則（「出处原則」）を取り入れて、それに従って文書資料を整理したとして、別に図書館が図書館でなくなるわけでも、博物館が博物館でなくなるわけでもない」*（さらに②については、今後予想される急速な文書の電子化問題も、当然想定しておく必要がある）。①②共に、自己定義には（他律的でなく）自律的な態度が必須であるという至極真っ当な議論であり、大いに説得力を持つものであった。

それから、上の目次にも示したように「機関を定義するにあたっては、機能（ファンクション）ではなく、目的理念が優先すべきであること」の説明が行われ、それまでの論点を踏まえて公文書館の理念が提示された。これについては「行政の活動の結果として残ったもののうち、組織の継続的運営にとって必要なもの、あるいは行政が市民に対する責任を果たすために必要なものを選択し、かなりの長期にわたって利用可能な状態にしておく」*ということ、つまり公文書館の行政的使命の重視という考え方に尽きると言ってよいだろう。関連して、公文書館の収集資料は親機関の生産し



前列右から、有川室長（副学長）、新谷教授（副室長）、筆者。
後列左、白石専門職員。

た公文書に限定すべきとの指摘も重要である。

このほか、収集基準と評価選別の基準は分別すること、現在評価選別が大きな問題となっていること、そしてこの評価選別を「価値論」で行ってはならないこと（評価選別と歴史家の関係）、デジタル化への対応等、問題提起は多岐に渡ったが、それらについての詳細は、後日何らかの形で同報告の活字化がなされるであろうから、そちらの方に譲りたい。但し、「公」の理解を果てしなく広げることで、際限なく「公文書等」を収集しようとする考え方が依然存在している現状からすれば、地域文書館は勿論、大学のアーカイブセクションのあり方にも一石を投じる報告であったことはここで強調しておきたい。

同報告については、地域文書館関係者からの質問があったほか、大学や大学史料室との関係について九大関係者3名から意見の発表や質問がなされたが、いずれにしろ公文書館論の専門家による非常に刺激的な報告であった。

次に富永報告のあと、休憩をはさんで各参加大学から以下のような現況報告が行われた。

北海道大学125年史編集室

大学アーカイヴズに関する北海道大学の動向

1. 北海道大学125年史編集事業
2. 北海道大学沿革資料室の現状
3. 編集室閉室後の体制の検討

東北大学史料館

東北大学史料館の状況

沿革

最近の動向

1. 行政文書の移管システムの検討

2. 東北大学情報シナジー機構

3. 将来構想等

名古屋大学大学史資料室

状況報告(2002年2月以降) —名古屋大学—

1. 行政文書等の管理のあり方

2. 主な活動

3. 将来構想の動向

神戸大学百年史編集室

神戸大学における行政文書管理と歴史資料

1. 神戸大学の行政文書管理

2. 神戸大学百年史編集委員会・同編集室の取り組み

3. 大学アーカイブズの課題

広島大学50年史編集室

「広島大学文書館」設置に向けて

—行政文書管理と50年史編集室—

1. 広島大学における行政文書管理の概要

2. 広島大学50年史編集事業

3. 広島大学にアーカイブズを
—50年史編集室による建議・提言—

4. 教育活動

九州大学大学史料室

九州大学大学史料室の現況

1. 沿革

2. 主な活動

3. 最近の動向

4. 将来構想等

京都大学大学文書館

京都大学大学文書館の状況報告

(2002年2月～2002年12月)

1. 行政文書

2. 学内印刷物

3. 個人資料

4. 写真

5. 内規等の整備

6. 刊行物

7. 研究プロジェクト「戦時下における京都大学についての基礎的調査および研究」

8. 時計台記念館への移転

各大学アーカイブセクションの活動報告とともに、北海道、広島等、年史編集室からアーカイブセクションへの改組を計画している大学からも近況報告がなされた。広島大学では平成16年度より公文書室と大学史資料室の2室から構成される広島大学文書館の発足が決定したという。

以上、第2回「大学アーカイブズに関する研究会」について報告した。最後に、京都大学大学文書館の充実ぶりや(富永報告に代表される)年々の文書館研究の進展等、大学アーカイブズ問題を考える上で大変有意義な研究会であったことを記して、擱筆したい。

(大学史料室助教授)

* 富永一也「公文書館にとっての資料保存の問題は、公文書館の理念の問題である」(資料保存協議会第2回セミナー。2000年6月16日。資料保存協議会ホームページ(<http://www.con-con.org/tominaga01.htm>)。本文では行論の参考のために、今回の報告より先に発表された上注記富永報告を引用する形で紹介した。ここにお断りしておきたい。

** 上に注記した報告のほか、富永氏には公文書館に関する以下のような詳細な研究がある。「評価・選別を難しくしているのは何か」(『沖縄県公文書館研究紀要』2)、「公文書館論」(『同』3)。なお、第1回「大学アーカイブズに関する研究会」では、筆者が大学アーカイブズについての報告を行った(『国立大学におけるアーカイブの設置とその機能』『京都大学大学文書館研究紀要』創刊号として発表)。本文の議論とも関連するもので、併せて参照して頂ければ幸いである。

大学史料室沿革

昭和59(1984)年11月

九州大学創立七十五周年記念事業委員会設置。

昭和60(1985)年3月

九州大学七十五年史編集委員会設置。

昭和60(1985)年5月

九州大学七十五年史編集室設置。

専任教官2名発令。

平成3(1991)年7月

九州大学七十五周年記念事業委員会委員長、大学史料室設置要望書(『九州大学史料の収集・保存について—九州大学史料室設置の提言—』)を、学長に提出。

平成4(1992)年1月

評議会、九州大学史料収集・保存に関する委

員会規則を制定。
 平成4(1992)年3月
 九州大学七十五年史編集委員会廃止。
 平成4(1992)年12月
 評議会、九州大学大学史料室規則を制定。
 九州大学大学史料室設置(学内共同利用施設)。
 平成5(1993)年3月
 『大学史料室ニュース』、『大学史料叢書』刊
 行開始。
 平成6(1994)年1月
 九州大学大学史料室印刷物収集・整理・保存
 要項制定。
 平成6(1994)年3月
 「九州大学大学文書館」概算要求書を、事務
 局に提出(以後平成13年3月まで提出)。
 平成9(1997)年1月
 九州大学大学史料室所蔵史料目録刊行開始。
 平成9(1997)年10月
 大学史料室専任教官による全学共通教育科目(周
 辺教養科目)「九州大学の歴史」開講。
 平成11(1999)年4月
 大学史料室専任・兼任教官等による全学共通
 教育科目(総合科目)「大学とは何か—ともに
 考える—」開講。
 大学史料室ホームページ開設。

平成13(2001)年3月
 評議会、九州大学大学史料室利用規程を制定。
 大学史料室、いわゆる「歴史的若しくは文化
 的な資料又は学術研究用の資料」(平成十二年
 二月政令第四十一号「行政機関の保有する情
 報の公開に関する法律施行令」第二条第三項)
 を保管する施設として、総務大臣より指定を
 受ける。
 平成13(2001)年10月
 共同研究「低年次教育における九州大学史カ
 リキュラム開発に関する研究」、2001年九州大
 学総長賞(P&P成果表彰)を受賞。
 平成14(2002)年2月
 評議会、九州大学情報公開委員会規則を制定。
 九州大学史料収集・保存に関する委員会規則
 廃止。
 平成14(2002)年3月
 評議会、九州大学大学史料室規則(改正)を
 制定。
 『大学とはなにか—九州大学に学ぶ人々へ—』
 刊行。
 平成14(2002)年4月
 副学長、史料収集・保存に関する委員会委員
 長及び大学史料室長に就任。

九州大学史料収集・保存に関する委員会名簿

委員長	副学長		有川 節夫	委員	工 院	助教授	渡邊公一郎
副委員長	人環院	教授	新谷 恭明	〃	農 院	教授	村田 武
委員	人文院	助教授	佐伯 弘次	〃	総 院	助教授	松永 信博
〃	比文院	教授	有馬 學	〃	応 研	助教授	広瀬 直毅
〃	言文院	助教授	鈴木 敦典	〃	博物 館	教授	岩永 省三
〃	理 院	助教授	粕谷 英一	〃	総務 部	部 長	白川 耕市
〃	医 院	教授	野瀬 善明				(2003年1月1日現在)
〃	医 院	教授	笹栗 俊之				

九州大学大学史料室名簿

室 長	副学長		有川 節夫	兼任	法 院	助教授	熊野 直樹
副室長	人環院	教授	新谷 恭明	〃	経 院	教授	萩野 喜弘
専任		助教授	折田 悦郎	〃	石炭 研	教授	東定 宣昌
兼任	人文院	助教授	佐伯 弘次	事務補佐員			松尾 陳代
〃	比文院	教授	有馬 學	〃			筑紫 啓子
〃	法 院	教授	植田 信廣				(2003年1月1日現在)

九州大学情報公開委員会規則（抄）

（趣旨）

第一条 この規則は、九州大学部局長会議規則（平成十三年十二月十八日施行）第二条第三項の規定に基づき、九州大学情報公開委員会（以下「情報公開委員会」という。）の具体的な任務等に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第二条 情報公開委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 行政文書の定義に関すること。
- 二 行政文書の開示基準の策定に関すること。
- 三 行政文書の開示決定等に関すること。
- 四 行政文書の開示決定等に係る不服申立に関すること。
- 五 行政文書の管理に関すること。
- 六 史料の収集、保存等に関すること。
- 七 その他情報公開に関すること。

（情報公開実施委員会）

第三条 情報公開委員会に、次に掲げる事項を審議又は実施を行わせるため、九州大学情報公開実施委員会（以下「情報公開実施委員会」という。）を置く。

- 一 行政文書の開示基準等に関する専門的事項の検討に関すること。
- 二 情報公開委員会の委任に係る行政文書の開示決定等に関すること。
- 三 行政文書の開示決定等に係る第五条第一項に規定する部局との連絡調整に関すること。

〔中略〕

（史料収集・保存に関する委員会）

第六条 情報公開委員会に、次に掲げる事項の調査審議を行わせるため、九州大学史料収集・保存に関する委員会（以下「史料収集・保存に関する委員会」という。）を置く。

- 一 史料の整理、保存及びその活用に関すること。
- 二 本学に係わる史料の収集に関すること。
- 三 本学に係わる史料としての公文書等の調査に関すること。

第七条 史料収集・保存に関する委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 副学長及び総長特別補佐のうちから総長が指名する者
- 二 大学院人文科学研究院、大学院人間環境

学研究院、大学院法学研究院及び大学院経済学研究院の教授及び助教授のうちから選ばれた者 二人

三 大学院理学研究院、大学院数理学研究院、大学院工学研究院、大学院システム情報科学研究院、大学院農学研究院、情報基盤センター及び有機化学基礎研究センターの教授及び助教授のうちから選ばれた者 三人

四 大学院医学研究院、大学院歯学研究院、大学院薬学研究院及び生体防御医学研究所の教授及び助教授のうちから選ばれた者 二人

五 大学院比較社会文化研究院、大学院言語文化研究院及び大学教育研究センターの教授及び助教授のうちから選ばれた者 二人

六 大学院総合理工学研究院、応用力学研究所、機能物質科学研究所及び健康科学センターの教授及び助教授のうちから選ばれた者 二人

七 センター群協議会Ⅰ及びセンター群協議会Ⅱを構成する教授のうちから選ばれた者 一人

八 附属図書館長

九 総務部長

2 前項第二号から第七号までの委員の任期は、二年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前項の委員は、再任されることができる。

4 委員は、総長が任命する。

5 史料収集・保存に関する委員会に委員長を置き、第一項第一号の委員のうちから総長が指名する者をもって充てる。

6 委員長は、史料収集・保存に関する委員会を招集し、その議長となる。

7 史料収集・保存に関する委員会に副委員長を置き、委員の互選により定める。

8 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

（情報公開実施委員会等の議事）

第八条 情報公開実施委員会及び史料収集・保存に関する委員会（以下「情報公開実施委員会等」という。）は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

2 情報公開実施委員会等の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(情報公開実施委員会等の委員以外の者の出席)

第九条 情報公開実施委員会等が必要であると認められた場合は、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聞くことができる。

(情報公開実施委員会等の専門委員会等)

第十条 情報公開実施委員会等に、特定の事項を調査・検討させるため、必要に応じて専門委員会等を置くことができる。

(事務)

第十一条 情報公開委員会及び情報公開実施委員会に関する事務は、事務局各課等の協力を

得て、総務部総務課において処理する。

(補則)

第十二条 この規則に定めるもののほか、情報公開委員会及び情報公開実施委員会等の運営に関し必要な事項は、当該委員会においてそれぞれ定める。

附 則

1 この規則は、平成十四年四月一日から施行する。

2 九州大学情報公開委員会規則（平成十二年九月二十二日施行）及び九州大学史料収集・保存に関する委員会規則（平成四年一月二十四日実施）は、廃止する。

[後略]

九州大学大学史料室規則

(設置)

第一条 九州大学（以下「本学」という。）に、学内共同利用の施設として九州大学大学史料室（以下「大学史料室」という。）を置く。

(業務)

第二条 大学史料室は、本学に係わる史料（以下「史料」という。）について、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 史料の収集、整理及び保存に関すること。
- 二 史料の調査・研究に関すること。
- 三 史料の活用に関すること。

(室長及び副室長)

第三条 大学史料室に、室長及び副室長を置く。

2 室長は、九州大学情報公開委員会規則（平成十四年四月一日施行）に定める九州大学史料収集・保存に関する委員会（以下「委員会」という。）の委員長をもって充て、総長が任命する。

3 室長は、大学史料室の業務を掌理する。

4 副室長は、委員会の委員のうちから、室長の推薦により、総長が任命する。

5 副室長は、室長を補佐し、大学史料室の業務を整理する。

6 副室長の任期は、二年とする。ただし、当該副室長への就任時における室長の任期の終期を超えることはできない。

7 副室長は、再任されることができる。

(室員)

第四条 大学史料室に、室員として教官若干人を置く。

2 室員は、室長の命を受け、大学史料室の業務を処理する。

(兼任の教官)

第五条 大学史料室に、兼任の教官を置くことができる。

2 兼任の教官は、本学の専任の教官のうちから、委員会の推薦に基づき、総長が任命する。

3 兼任の教官の任期は、二年とし、再任を妨げない。

(事務)

第六条 大学史料室の事務は、総務部総務課において処理する。

(利用)

第七条 大学史料室が所蔵する史料の利用に関し必要な事項は、総長が別に定める。

(雑則)

第八条 この規則に定めるもののほか、大学史料室の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て、室長が細則で定める。

附 則

この規則は、平成四年十二月十一日から施行する。

附 則（平成九年四月一日）

この規則は、平成九年四月一日から施行する。

附 則（平成十三年三月二十三日）

この規則は、平成十三年三月二十三日から施行する。

附 則（平成十四年四月一日）

この規則は、平成十四年四月一日から施行する。

大学史料室共同研究一覧

- ・大学と地域社会の関係史に関する基礎的研究
—九州帝国大学を中心として—
 科研費(基盤(B)(2)) 平成8年度～9年度
- ・九州大学における“古写真”の調査・研究
 教育研究学内特別経費 平成8年度
- ・大学史料の情報資源化と大学アーカイブスのシステム開発に関する基礎的研究
 科研費(基盤(B)(2)) 平成10年度～11年度
- ・低年次教育における九州大学史カリキュラム開発に関する研究
 九州大学P & P (C) 平成10年度～12年度
- ・『大学とは何か—九州大学で学ぶ人々へ—』の編集・出版
 財団法人九州大学後援会助成事業費 平成13年度
- ・大学アーカイブス機能についての基礎的研究
—「大学改革」との関連において—
 科研費(基盤(B)(2)) 平成14年度～
- ・九州帝国大学における留学生に関する基礎的研究
 科研費(基盤(C)(2)) 平成14年度～

刊行物一覧

- ・九州大学七十五年史 全5巻
 1986. 5～1992. 3
- ・九州大学七十五年史編集室主要収集資料仮目録
 1991. 4
- ・九州大学史料の収集・保存について
—九州大学史料室設置の提言— 1991. 4
- ・大学史料叢書 第1輯～第10輯
 1993. 3～2002. 3
- ・大学史料室ニュース 第1号～第19号
 1993. 3～2002. 3
- ・九州大学関係史料仮目録 1997. 1
- ・他大学関係史料仮目録 1997. 1
- ・大学史料室所蔵写真仮目録 1997. 1
- ・文部省等諸団体関係史料仮目録 1997. 1
- ・九州大学大学史料室所蔵写真目録
—九州帝国大学時代— 1997. 3
- ・ARCHIVES OF KYUSHU UNIVERSITY No 1～No 3
 1997. 3～2001. 11
- ・九州大学七十五年史
—九州帝国大学を中心として— 1998. 3
- ・総長訓示式辞(自明治四十四年四月至昭和二十年八月) 1998. 3
- ・九州大学関係史料目録 1999. 3
- ・試行授業「九州大学の歴史」に対する学生の反応について 1999. 3
- ・大学史料の情報資源化と大学アーカイブスのシステム開発に関する基礎的研究 2000. 3
- ・試行授業「大学とは何か—ともに考える—」の記録 2000. 3
- ・九州大学大学史料室所蔵史料目録 2000. 7
- ・低年次教育における九州大学史カリキュラム開発に関する研究 2001. 3
- ・『低年次教育における九州大学史カリキュラム開発に関する研究』講義録 2001. 8
- ・大学とはなにか —九州大学に学ぶ人々へ— 2002. 3
- ・史料復刻『九大風雪記』 2003. 3
- ・大学と地域社会の関係史に関する基礎的研究

受贈図書一覧(2002年1月～2002年10月)

- | | |
|--|--------------------------------|
| 郭沫若留日十年 1914—1924
武継平 2001. 3 | 日本で初めて翻訳した解剖書
原 三信編 1995. 6 |
| 郭沫若・日本の旅
劉徳有著 村山学訳 1992. 10 | 蘭方医三百年
原 三信編 1985. 10 |
| 原 實 医学論文集(一) 自大正十年至昭和二年
原土井病院 1983. 1 | 比較哲学
猪城博之 1988. 2 |
| 原 志免太郎 日本一長生きした男
原学園 1996. 10 | 感恩記
猪城博之 1999. 11 |

- 九州大学の森と樹木
「九州大学の森と樹木」編纂委員会 2002.10
- 九州大学演習林 回想記
九州大学農学部附属演習林創立90周年記念事業
実行委員会 2002.10
- 九州大学演習林 九十年史
九州大学演習林九十年史編集委員会 2002.9
- 九州大学法学部東京同窓会会報 第6号
田坂和義 2002.10
- 大学教育の可能性—教養教育・評価・実践—
寺崎昌男 2002.9
- 美学事始 芸術学の日本近代
神林恒道 2002.9
- HOKKAIDO UNIVERSITY 1876-2001 写真集 北大
125年 北海道大学
北海道大学125年史編集室 2001.12
- 北海道大学125年史編集室だより 第5号
北海道大学125年史編集室 2002.3
- 「東北帝国大学と女子学生」展示目録・解説
東北大学史料館 2002.3
- 東北大学史料館だより No.3
東北大学史料館 2002.10
- 東北大学百年史編纂室ニュース 第9号
東北大学百年史編纂室 2002.5
- まなびの杜 東北大学 2002 春 No.19
東北大学総務部広報課 2002.3
- 東京大学史紀要 第20号
東京大学史料の保存に関する委員会 2002.3
- 東京大学史史料室ニュース 第28号
東京大学史史料室 2002.3
- お茶の水女子大学 大学資料目録1
お茶の水女子大学 2001.3
- 金沢大学資料館だより No.19
金沢大学資料館 2002.2
- 名古屋大学史紀要 第10号
名古屋大学大学史資料室 2002.3
- 名大史ブックレット4 豊田講堂と古川図書館
—名古屋大学の寄付建物—
名古屋大学大学史資料室 2001.12
- 名大史ブックレット5 名古屋大学最初の外国人
教師—ヨングハンス先生とローレッツ先生—
名古屋大学大学史資料室 2002.3
- 名古屋大学 大学史資料室保存資料目録 第2集
名古屋大学大学史資料室 2002.3
- 名古屋大学大学史資料室ニュース 第12号
名古屋大学大学史資料室 2002.3
- 京都大学大学文書館だより 第2号
京都大学大学文書館 2002.4
- 神戸大学百年史 通史I 前身校史
神戸大学百年史編集委員会 2002.3
- 神戸大学百年史写真集 One Hundred Years of Kobe
University
神戸大学百年史編集委員会 2002.3
- 広島大学史紀要 第4号
広島大学五十年史編集室 2002.3
- 広島大学所蔵 森戸辰男関係文書目録 上巻
森戸文書研究会 小池聖一編 2002.9
- 広島大学所蔵 森戸辰男関係文書目録 下巻
森戸文書研究会 小池聖一編 2002.9
- 高等教育研究叢書69 文革後中国における大学院
教育
広島大学高等教育研究開発センター 2002.3
- 高等教育研究叢書70 情報教養「表現スキル～作
図と作表」のコース 開発；高等教育にかかわ
る教育工学研究
広島大学高等教育研究開発センター 2002.3
- 大学論集 第32集(2001年度)
広島大学高等教育研究開発センター 2002.3
- コリীগ No.33
広島大学高等教育研究開発センター 2002.3
- 人文論集 第37巻3号、第37巻4号
神戸商科大学学術研究会 神戸商科大学経済
研究会 2002.3、2002.3
- 下関市立大学 大学点検評価報告書第8冊 下
関市立大学 —地域貢献と財政構造—
下関市立大学 大学点検評価委員会 2001.9
- 下関市立大学発展の途 —地域に根差し世界を
目指す大学としての一層の発展を願って—
下関市立大学教授会 2001.10
- 宮城学院資料室年報 『信・望・愛』 2001年度
第8号
宮城学院資料室運営委員会 2002.3
- 校史 Vol.14
國學院大学校史資料課 2002.3
- 創価教育研究 創刊号
創価大学創価教育研究センター 2002.3
- 拓殖大学百年史 部局史編
拓殖大学創立百年史編纂専門委員会 2002.3
- 拓殖大学百年史研究 9号、10号
拓殖大学日本文化研究所附属近現代研究セン
ター 2002.3、2002.7
- 拓殖大学百年史研究 別冊 —拓殖大学百年史
編纂 拾遺I—
拓殖大学創立百年史編纂室 2002.6

- サティア《あるがまま》第45号～第48号
東洋大学井上円了記念学術センター
2002. 1、2002. 4、2002. 7、2002. 10
- 未来を夢みてここに集う—日本女子大学創立100
周年記念特別展示・記録集—
日本女子大学成瀬記念館 2002. 3
- 日本女子大学学園史ニュース 第5号
日本女子大学成瀬記念館 2002. 3
- 武蔵野美術大学 大学史史料集 第三集 『同盟
休校事件』
大学史史料委員会 2002. 3
- 歴史編纂事務室報告 第二十三集 創立一二〇
周年と明治大学史展
明治大学歴史編纂事務室 2002. 3
- 第9回 明治大学小史展 女子部・女子専門学
校の歩み
明治大学歴史編纂事務室 2002. 3
- 児玉記念図書館開館二十五周年記念 明星大学
所蔵貴重書図録
明星大学 2001. 12
- 明星大学理工・人文・経済学部育星会 会報
第一一八号
明星大学理工・人文・経済学部育星会 2002. 3
- 納函記念録（復刻版）
立教学院 2001. 3
- 生誕一五〇周年記念 図録 小野梓 —立憲政
治の先駆・大学創立の功労者—
早稲田大学 2002. 3
- 神奈川大学会議録（三） 神奈川大学史資料集
第十八集
大学資料編纂室 2002. 3
- 新島研究 第93号
同志社社史資料室第一部門研究 代表・井上勝
也 2002. 2
- 同志社時報 第114号
麻生潤編 2002. 10
- 『同志社山脈』の世界—Neesima Room 第22回企
画展—
同志社大学人文科学研究所内同志社社史資料室
2002. 10
- 立命館百年史紀要 第十号
立命館百年史編纂室 2002. 3
- 龍谷大学史報 Vol. 1
龍谷大学大学史資料室 2002. 3
- 桃山学院年史紀要 第二十一号
桃山学院年史委員会 2002. 3
- 関西学院史紀要 第八号
関西学院学院史編纂室 2002. 3
- 野間教育研究所紀要 第34集 資料教育審議会
（総説）
清水康幸〔ほか〕 1991. 12
- 野間教育研究所紀要 第38集 教育審議会の研究
中等教育改革
米田俊彦 1994. 8
- 野間教育研究所紀要 第39集 教育審議会の研究
青年学校改革
米田俊彦 1995. 9
- 野間教育研究所紀要 第42集 教育審議会の研究
師範学校改革
清水康幸 2000. 2
- 野間教育研究所紀要 第43集 教育審議会の研究
高等教育改革
米田俊彦 2000. 6
- 野間教育研究所紀要 第44集 教育審議会の研究
教育行財政改革 一付 国民学校・幼稚園審議
経過—
米田俊彦 2002. 3
- 野間研だより No. 8～No. 10
池永陽一編、鈴藤益弘編
2002. 3、2002. 6、2002. 9
- 史料館の歩み五十年
国文学研究資料館史料館 2001. 11
- 国立公文書館
国立公文書館 2001. 10
- 大学アーカイヴズ No. 26
全国大学史資料協議会東日本部会 2002. 3
- 文明のクロスロード Museum Kyushu 第19巻・
第2号 通巻72号
Museum Kyushu編集委員会 2002. 6
- DJIバイマンスリーレポートNo. 44～No. 47
国際資料研究所
2002. 5、2002. 7、2002. 9、2002. 11
- 記念館だより 第26号～第28号
旧制高等学校記念館
2002. 3、2002. 6、2002. 10
- 神奈川県立公文書館だより 第8号
神奈川県立公文書館 2002. 3
- 神奈川県立公文書館紀要 第4号
神奈川県立公文書館 2002. 3
- 平成13年度神奈川県立公文書館年報
神奈川県立公文書館 2002. 6
- 広島県立文書館企画展 戦中・戦後の援護—戦
争犠牲者への追悼と援護
広島県立文書館 2002. 7

広島県立文書館だより 第十九号～第二十号
 広島県立文書館 2002. 1、2002. 7
 ウィンズ・風 Vol.31
 福岡県人権・同和教育研究協議会 2002. 7
 福岡市総合図書館研究紀要 第3号
 福岡市総合図書館 2002. 3
 平成十三年度 古文書資料目録 七
 福岡市総合図書館文書資料課 2002. 3
 福岡市文学館 秋の企画展 クローズアップ・
 FUKUOKA① 余は発見せり ～伊達得夫と旧制福
 高の文学山脈～ 会期 九月二五日(水)～一
 月四日(月)
 福岡市総合図書館文学・文書課 2002. 9
 柳川古文書館年報 第2集
 九州歴史資料館分館柳川古文書館 2002. 3
 柳川古文書館史料目録第13集 安東家史料目録
 (増補訂正版)
 九州歴史資料館分館柳川古文書館 2001. 3
 菊葉 第四十号
 同窓会誌「菊葉」編集委員会 2001. 12
 創立八十周年記念 人生旅路遠けれど
 青陵会記念誌編集委員会 2002. 10
 旧制福岡高等学校歌集
 旧制福岡高等学校80周年記念祭実行委員会
 2002. 10
 旧制福岡高等学校創立80周年記念祭出席者名簿
 青陵会 2002. 10
 松本高等学校同窓会名簿 第十集
 松本高等学校同窓会 1998. 10
 松本高等学校同窓会会報 87号、96号、97号
 松本高等学校同窓会
 1997. 3、2000. 3、2000. 9
 クラス会誌「暁雲」[卒業五〇年記念誌] 二号
 暁雲編集委員会 1998. 5
 東光 1998～2000 第49号～第51号
 東京高等学校同窓会
 1998. 8、1999. 8、2000. 8
 理事会だより
 東高同窓会 1997. 2、1998. 3
 同窓会だより
 東京高等学校同窓会 1999. 2
 二高尚志同窓会会報「尚志」 第58号、第59号、
 第61号～第70号
 第二高等学校尚志同窓会
 1997. 2、1997. 5、1998. 1、1998. 5、
 1998. 9、1999. 1、1999. 5、1999. 9、
 2000. 1、2000. 5、2000. 9、2001. 1

游就会誌 復刊第二十二号～復刊第二十七号、
 復刊第二十九号、復刊第三十号
 游就会
 1989. 10、1990. 10、1991. 10、1992. 10、
 1993. 11、1994. 11、1996. 10、1997. 12
 旧制弘前高等学校同窓会報 創立80周年記念特集
 号 第30号
 旧制弘前高等学校同窓会 2000. 9
 創立75周年記念祭誌 旧官立弘前高等学校同窓会
 旧官立弘前高等学校創立75周年記念祭実行委員
 会 1995. 10
 北溟寮々歌集 [創立七十五周年記念祭の記念
 事業として制作]
 旧制弘前高等学校同窓会 1995. 10
 龍爪 旧制静高同窓会報 第71号
 旧制静岡高等学校同窓会事務所 2000. 3
 旧制高等学校記念館 ―その生い立ちと歩み―
 旧制高等学校記念館 友の会 1996. 4
 旧制高等学校の青春
 松本市教育委員会社会教育課 1998. 10
 あがたの森に学び舎は生きる ―文化財の保存
 と活用―
 信州大学文理学部同窓会 母校跡地保存運動
 史編纂会 1999. 10
 旧制高等学校卓球史
 旧制高等学校卓球OB会事務局 1998. 2
 旧制高校の跡を訪ねて 東海学士会三十周年記念誌
 東海学士会 1987. 8
 薫風寮史(復刻版)
 「薫風寮史」復刻刊行会 1998. 7
 生徒動員日誌 [復刻版]
 広島高等学校同窓会 生徒動員日誌刊行会監修
 1998. 7
 やまはるか くもうかび 八高創立九十年祭記念誌
 八高創立九十年祭実行委員会 2000. 12
 第六高等学校 校友会部史 [創立百周年記念]
 第六高等学校同窓会 2000. 10
 エッセイと写真 松江 春夏秋冬 [松江高等学
 校創立八十周年記念]
 西上一義 2000. 8
 福高剣友会会報 剣友だより 第一号～第五号
 福高剣友会東京支部
 1993. 12、1994. 12、1995. 12、1996. 12、1997. 12
 讃歌 付「旧制福高寮歌集」 第26号
 久保誠一郎編 1988. 7
 盛岡高等農林学校 創立二十五周年 記念論叢
 盛岡高等農林学校 盛岡高農同窓会 1928. 5

青春の残像 ―青春は寮歌と共に―
野口泰蔵企画 安孫子亮撮影 1994. 6
日本寮歌祭九州大会 第5回
日本寮歌振興会 1971.11
日本寮歌祭 第23回、第37回
日本寮歌振興会 1983. 9、1997. 9
九州寮歌祭 第7回、第10回～第21回、第23回、
第24回、第26回～第28回
九州寮歌振興会
1973.11、1976.11、1977.11、1978.11、
1979.11、1980.11、1981.11、1982.11、
1983.11、1984.11、1985.11、1986.11、
1987.11、1989.11、1990.11、1992.11、
1993.11、1994.11
青春の譜 日本寮歌祭二十年の歩み
神津康雄 1982.11

日本寮歌祭四十年史
日本寮歌振興会 2000.11
寮歌は生きている
服部喜久雄編 1966. 5
わが失われし日本 五高最後の米国人教師
ロバート・クラウダー著、渡辺章子訳 1996. 4
海軍主計大尉の太平洋戦争 私記ソロモン海戦・
大本営海軍報道部
高戸顕隆 1994.10
東京大学の学徒動員 学徒出陣
東京大学史史料室 1997. 3
ああ青春よ 我にまた 旧制高等学校碑の旅
松浦濤人 1996. 3

* 掲載したのは受贈図書の一部である。

大学史料室日誌抄録 (2002年1月～2002年10月)

- 1.10 (木) 第28回九州大学史料収集・保存に関する委員会開催。
平成14年度教官定員運用要望書提出。
- 1.22 (火) 青陵会 (旧制福岡高等学校同窓会) より史料調査のため来室 (1月31日、2月26日、3月5日、6月18日、7月17日、9月19日も同様)。
博物館学実習生等、大学史料室見学のため来室。
- 1.23 (水) 池上重康北海道大学大学院工学研究科助手 (北海道大学125年史編集室員)、大学史料室視察のため来室。
- 1.24 (木) 人事課より定年制の件につき照会。
- 1.25 (金) 久保田るり子氏より史料寄贈。
- 1.30 (水) 小川千代子国際資料研究所代表、大学史料室視察のため来室。
神林恒道大阪大学大学院文学研究科教授、史料調査のため来室。
2. 1 (金) 韓国研究センターより史料調査のため来室 (2月8、15、20、22、25、27日、4月18、19、22日も同様)。
- 2.12 (火) 財団法人九州大学後援会助成事業「教官の研究プロジェクトに対する助成」に採択される (代表新谷室長)。
- 2.16 (土) P & P説明聞取 (新谷室長、折田助教授出席)。
- 2.18 (月) 西日本新聞社記者、取材のため来室。
- 2.19 (火) 評議会、九州大学情報公開委員会規則を制定。
- 2.20 (水) 第1回大学アーカイヴズ研究会 (～21日。於京都大学大学文書館)、新谷室長、折田助教授、田中秀敏総務課長補佐参加。折田助教授、「大学アーカイヴズの設置とその機能」発表。
- 2.21 (木) 法学部事務局より史料受領。
- 3.18 (月) 武継平大学教育研究センター助教授より史料寄贈。
西谷正大学院人文科学研究院教授より史料寄贈。
- 3.19 (火) 評議会、九州大学大学史料室規則 (改正) を制定。
- 3.20 (水) 第3回九州大学文書館設置準備委員会開催 (新谷委員長出席)。
西山伸京都大学大学文書館助教授、岸本佳典京都大学総務課長補佐、大学史料室視察のため来室。
- 3.28 (木) 馬場恵氏、事務補佐員退職。
- 3.29 (金) 菊竹淳一大学院人文科学研究院教授より史料寄贈。
川崎晃一名誉教授より史料寄贈。
伊東正夫氏 (農学部卒業生) より史料寄贈。
機能物質科学研究所より生産科学研究所の件につき照会。

- 3.31 (日) 『大学史料叢書』第10輯、『大学史料室ニュース』第19号刊行。
新谷・折田編『大学とはなにか—九州大学に学ぶ人々へ—』(海鳥社)刊行。
- 4.1 (月) 有川節夫副学長、史料収集・保存に関する委員会委員長及び大学史料室長に就任。
新谷恭明元委員長(同室長)、副委員長及び副室長に就任。
松尾陳代氏、事務補佐員採用。
- 4.2 (火) 川東利男大学院理学研究院教授・長野則満氏(理学部卒業生)より史料寄贈(9月2日も同様)。
- 4.5 (金) 山口宗之名誉教授より史料寄贈。
- 4.9 (火) 水崎雄文氏(文学部卒業生)、史料調査のため来室(5月30日、7月16日、10月22日も同様)。
- 4.10 (水) 古野純典大学院医学研究院教授、原寛氏(医学部卒業生)、史料調査のため来室、史料寄贈。
- 4.11 (木) 第29回九州大学史料収集・保存に関する委員会開催。
平成14年度大学史料室振替要求書提出。
- 4.17 (水) 2002年度前期「大学とは何か—ともに考える—」開講。
- 4.19 (金) 企画広報室より史料受領。
- 4.25 (木) 教育学部より旧教育学部附属比較教育文化研究施設関係文書受領(4月30日、5月3、7、14、15日も同様)。
- 5.8 (水) 折田助教授、医学部百年史編集委員会に出席(於医学部。8月7日、11月13日も同様)。
- 5.23 (木) 読売新聞社記者、取材のため来室。
九州山口経済連合会より史料調査のため来室(～24日)。
- 5.30 (木) 秀村選三名誉教授来室、史料寄贈。
- 6.4 (火) 建築学科より史料調査のため来室(6月13～14、17、26～28日、7月3日、9月27日も同様)。
- 6.7 (金) 比較社会文化学府等事務部より史料寄贈の件で来室。
- 6.11 (火) 理学部庶務掛より史料調査のため来室(9月10日も同様)。
- 6.17 (月) 武継平大学教育研究センター助教授、史料調査のため来室(6月24日、11月18日も同様)。
- 6.19 (水) 医学部同窓会会員(原寛、小林晶、奥村武氏等)、『九州大学医学部百周年記念写真集』編集の件で来室。
- 6.22 (土) 折田助教授、大学史研究会編集会議(於明治大学)に出席。
- 6.28 (金) 日本経済新聞社記者、取材のため来室。
- 7.30 (火) センター地区基本設計に関する調査説明会(折田助教授出席)。
- 8.2 (金) 森祐行工学研究院教授より史料寄贈。
- 8.9 (金) 研究協力課より史料受領。
- 8.20 (火) 中村尚史東京大学助教授、大学史料室視察のため来室。
石川巧比較社会文化研究院助教授、史料調査のため来室。
- 8.21 (水) 西日本新聞社記者、史料調査のため来室。
- 8.23 (金) 石川捷治韓国研究センター長より史料寄贈。
- 8.28 (水) 石川巧比較社会文化研究院助教授、長野秀樹長崎純心大学教授、史料調査のため来室(～29日)。
- 8.29 (木) 福岡進学情報サービス室より史料寄贈。
- 9.4 (水) 農学部附属演習林より史料調査のため来室。
- 9.6 (金) 第16回文化財ワーキンググループ開催(折田助教授出席)。
- 9.9 (月) 東京大学大学院留学生、史料調査のため来室(11月21日も同様)。
- 9.10 (火) センター地区基本設計調査ヒアリング(新谷副室長、折田助教授出席)。
藤本登留大学院農学研究院助教授、史料調査及び史料借用のため来室。
- 9.12 (木) 施設部等より新キャンパス移転に伴う現状調査のため来室。
- 9.19 (木) 青陵会より史料調査のため来室。人間環境学院院生、史料調査のため来室。
井澤英二名誉教授より史料寄贈。
- 10.1 (火) 古賀信也農学部附属演習林助教授、史料調査のため来室。
- 10.2 (水) 医学部同窓会会員、『九州大学医学部百周年記念写真集』編集の件で来室、編集会議開催。
- 10.7 (水) 医学部百年史編集委員会より史料調査のため来室(～9日)。
- 10.9 (水) 青陵会より史料(旧制福高校旗)借用のため来室。
第17回文化財ワーキンググループ開催

- (折田助教授出席)。
- 10.10 (木) 「旧制福岡高等学校跡」記念標柱除幕式(於六本松地区)、旧制福岡高等学校80周年記念祭挙行(於ソラリア西鉄ホテル。折田助教授及び室員出席)。
- 10.15 (火) 折田助教授、第28回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会及び研修会に参加(～18日。於富山市国際会議場)。
- 10.25 (金) 折田助教授、2002年度後期全学共通教

育科目「九州大学の歴史」開講。
青陵会より史料寄贈。

- 10.28 (月) 整備計画課へ移転関係書類提出。
- 10.29 (火) NPO法人地域大学連携機構より九州大学と地域との関係につき照会、史料送付。
- 10.30 (水) 九州大学広島地区法・経同窓会より九州大学の歴史につき照会、史料送付。

— お 願 い —

大学史料室は昨年12月、創設10周を迎えました。また大学史料室ニュースも本号で20号となります。今回はささやかながら特集号としました。これまでのご協力に感謝いたしますとともに、今後のご支援をお願い申し上げる次第です。ところで、大学史料室では、大学アーカイブとしての充実をはかるため、学内外の印刷物、会議史料や各種の写真等を収集しております。下記のような史料がありましたら、大学史料室までご寄贈、ご貸与くださいますようお願い申し上げます。ご寄贈頂きました史料は、当室で整理の上、永く保存し、教育及び大学史・学術研究発展の史料として活用させて頂きたく存じます。

* 文書史料(旧制福高等の前身校を含む。以下同じ)

- ・ 会議等の学内行政に関する史料(書類等)
- ・ 日記・手紙・メモ等の個人史料
- ・ 講座・研究室等の日誌・記録

* 図書

- ・ 九州大学関係者(教官・事務官・学生)の著書・印刷物。例えば「思い出の記録」、随想、伝記、年譜、記念論集、業績集(著作目録)、同窓会関係図書、部史

* 写真(アルバム)

- ・ 構内風景・建物
- ・ 講義風景・諸行事(大学祭・記念行事等)
- ・ 学生生活の写真
- ・ 人物写真

* その他

- ・ 卒業証書・学位記・学生証・職員証等
- ・ 校旗・校章・講義ノート・寄書き等の記念物品
- ・ 新聞・雑誌のスクラップ
- ・ 学生運動関係等の史料(ピラ等)

九州大学大学史料室ニュース 第20号

発行日 2003年2月28日(年2回刊)

編集
発行

九州大学大学史料室
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
電話・FAX (092) 642-2292

Archives of Kyushu University

印刷 (株)ミドリ印刷